



神庭通信 2018

(かにわ つうしん)



平成30年度 校長室だより

第6号 H30. 9. 25

2学期が始まりました。朝夕には秋風を感じるようになり、日の暮れるのも早くなってきました。夏の疲れや季節の変わり目等で体調を崩しやすい時です。どうぞ気をつけてお過ごしください。

体育館トイレの改修

夏季休業中に体育館脇のトイレ改修工事があり、だれでも使用できる「みんなのトイレ」になりました。広いスペースがあり、大きめのベッドを置くことができますようになっていました。また洗面台は手を差し出すと水が出てくる「自動水栓」となりました。



住吉高校文化祭に分教室が参加



9月8日(土)、分教室の生徒たちが住吉高校の文化祭に参加しました。分教室生徒による「秋のハンドメイド展」では、手工芸班、環境班、事務サービス班がそれぞれ来場者に製作の体験をしてもらい、注文を聞

いたり作り方のアドバイスをしたりして活躍していました。高校生や先生方、分教室の卒業生や保護者の方々などたくさんの人に来ていただきました。



名刺



コースター



せっけん

災害への備えと防災訓練

今年の夏は豪雨、台風、地震と大きな災害が続きました。被災された地域の皆さまには心よりお見舞い申し上げます。学校では9月1日の防災に日に合わせ、9月初めに「災害時連絡訓練」と「シェイクアウト訓練」を行ないました。防災教育や訓練は授業の中でも計画的に取り入れているところですが、今後も日々の学習と関連付けながら様々な訓練を行っていこうと考えています。ぜひご家庭でも災害に備えて今できること等について話題にしていいただければと思います。

校歌のお話（第5回）

「こころ明るく 歌う声」



中原養護学校の校長室は、音楽室の真下にあります。音楽の時間になるといろいろな学部の児童生徒が授業で使うので、歌声やピアノの音、手拍子や足踏み、太鼓の音など様々な音楽が聞こえてきます。それだけでなく、たとえば交流している地域小学校の児童によるリコーダー演奏や、高校生のグリークラブによる合唱、またプロの演奏家によるクラシックやジャズやオペラの演奏など、時には自分がやり、時には人の奏でる音を聴き、時には踊ったりリズムに合わせて揺れたり、一人ひとりのスタイルでだれもが一緒に参加するような機会が学校にはたくさんあります。校歌の歌詞の「こころ明るく歌う声」を聞くと、いつも子どもたちのキラキラした表情やまっすぐな眼差しが浮かんできます。

学校に響く子どもたちの声には、人の心をあたたくする素敵な力があります。声といっても耳で聞くことのできる音声言語だけではなく、一人ひとりが自分なりの方法で発信するものすべてが子どもたちの「声」ですが、登校後の「おはようございます」から始まる一日は、いつも私たちを元気にしてくれますし、「よし、今日もがんばろう」と笑顔でスタートをきることができます。

また授業中に教室から聞こえてくる子どもたちの声には、勉強を頑張っている頼もしさが感じられます。頭を働かせてよく考え、自分の考えを言葉にして表現する活動（※下記参照）は、国語に限らずすべての学習場面でとても大切です。言葉を使って考えたり、提示されたものに対して意思表示したりするには、その言葉や提示内容が示す意味を理解していることが前提ですが、経験を通してこうした理解を深め広げていく日々の学習を積み重ねながら、児童生徒が成長していけるよう、これからも工夫を重ねていきたいと思っています。

※ 平成 29 年 4 月に告示された特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の総則 第 2 節より

「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、児童又は生徒の発達の段階を考慮して、児童又は生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童又は生徒の学習習慣が確立するよう配慮すること。」